

# 公益社団法人 日本天文学会

## 2013年度事業報告書

### I. 出版物の刊行（定款第2章第5条2項に該当の事業）

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第65巻2号-6号、特集号、第66巻1号の計7回刊行。総論文数163編(うちLetter15編、特集19編)、総頁数1,745頁、発行部数1,050部、偶数月の25日発行。日本学術振興会より科学研究費補助金(学術定期刊行物)700万円を受領。
2. 天文月報 : 第106巻5号-12号、第107巻1号-4号を刊行。総頁数786頁、総目次10頁、発行部数3,300部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集 : 2013年秋季年会発行総頁数352頁、700部印刷。2014年春季年会発行総頁数344頁、700部印刷。
4. ジュニアセッション : 春季講演予稿集180頁、800部印刷。

### II. 年会の開催（定款第2章第5条1項に該当の事業）

1. 2013年秋季年会  
2013年9月10日から12日の3日間、東北大学（宮城県仙台市）にて口頭講演会場10、ポスター会場8を使って開催した。講演件数は口頭講演が495件、ポスター講演が257件の合計752件の講演があった。年会参加者は946名であった。これに加えてジュニアセッションの参加者が3名あった。本年会では、企画セッション1件（「超高精度CMB偏光全天観測時代の天文学」）、ジュニアセッション、天文教育フォーラムを行った。保育室、正会員向け展示ブース2件（「ALMAデータ閲覧用VOシステムのデモ」、「TMT望遠鏡の試作セグメント鏡」）を開設した。また、年会上先立ち9月9日（月）に記者発表講演（3件）を行った。9月14日（土）には公開講演会（本講演会は日本学術振興会・科学研究費補助金（2553002）の助成による）を開催し、約100名が来場した。懇親会は9月11日（水）に行い、出席者は約330名であった。
2. 2014年春季年会  
3月19日(水)から22日(土)の4日間、国際基督教大学（東京都三鷹市）にて口頭講演会場10、ポスター会場10を使って開催した。講演件数は口頭講演が481件、ポスター講演が240件であり、合計721講演であった。年会参加者は1073名であった。本年会では、特別セッション2件（「TMT特別セッション」、「ALMA特別セッション：ALMAアーカイブデータが切り開く天文学」）、企画セッション3件（「rプロセスと重力波天文学」、「ALMAの初期科学成果」、「天文学史とその資料収集・調査・研究」）、ジュニアセッション、天文教育フォーラム、林忠四郎賞・研究奨励賞受賞記念講演を行った。保育室、正会員向け展示ブース1件（「TMT望遠鏡模型展示」）を開設した。また、年会上先立ち3月18日（火）に記者発表講演（2件）を行った。3月23日（日）に公開講演会を開催し、約550名が来場した。懇親会は3月21日（水）に行い、出席者は272名であった。

### III. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査（定款第6-8章第36-57

## 条に該当の事業)

### 1. 代議員総会

日 時：2013年5月26日(日) 13:00~17:00

場 所：東京大学理学部1号館336号室(東京都文京区)

議 長：櫻井 隆 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2013年9月11日(水) 11:30~12:30

場 所：東北大学 講義棟B棟1F B102号室(宮城県仙台市)

議 長：櫻井 隆 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2014年1月26日(日) 13:00~17:00

場 所：東京大学理学部1号館336号室(東京都文京区)

議 長：櫻井 隆 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2014年3月20日(木) 11:30~12:20

場 所：国際基督教大学 本館2F H213号室(東京都三鷹市)

議 長：櫻井 隆 (議事録は学会ホームページに掲載)

### 2. 理事会

日 時：2013年5月11日(土) 13:00~17:00

場 所：東京八重洲ホール 411号室(東京都中央区)

議 長：櫻井 隆 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2013年6月10日(月)

場 所：定款第40条、電磁的記録による議決

議 長：櫻井 隆 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2013年9月10日(火) 13:20~14:40

場 所：東北大学年会会議室(宮城県仙台市)

議 長：櫻井 隆 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2013年12月8日(日) 13:00~17:00

場 所：東京八重洲ホール 512号室(東京都中央区)

議 長：櫻井 隆 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2014年3月19日(水) 19:00~20:10

場 所：国際基督教大学 理学部2F N203号室(東京都三鷹市)

議 長：櫻井 隆 (議事録は学会ホームページに掲載)

### 3. 会員全体集会

日 時：2013年9月11日(水) 16:00~17:20

場 所：東北大学川内北キャンパスマルチメディア教育研究棟マルチメディアホール(宮城県仙台市)

司会：中村 文隆

日 時：2014年3月20日（木）15:30～16:30  
場 所：国際基督教大学 理学部2F N220号室（東京都三鷹市）  
司会：本原 顕太郎

#### 4. 公益社団法人2013年度監査

日 時：2013年4月24日（水）15:30～17:30  
場 所：国立天文台三鷹キャンパス解析研究棟 1F 院生セミナー室（東京都三鷹市）  
出席者：尾中 敬、郷田 直輝、松尾 宏、熊谷 紫麻見、本原 顕太郎、中村 文隆、西野 洋平、亀井 久治公認会計士（オブザーバー）

## IV. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠）

本年度は以下の15の委員会と1の顧問会議において構成メンバー（任期2年の第1年目）により各種活動が行なわれた。

### ◇ 欧文研究報告編集顧問会議

編集顧問会議を2013年11月16日に国立天文台で行った。2013年までの各種統計、2013年の刊行状況、今後の特集予定などが報告された。科研費の制度が変わり2014年度は申請しないことになった。Oxford University Pressへの移行準備状況について報告があり、掲載料や機関購読価格等が確認された。学位論文の機関リポジトリ登録と欧文研究報告としての対応について確認し、Letter論文の長さについて議論し、語数により長さを制限する方向で検討することにした。編集委員の増員についても進めることとした。

### ◇ 欧文研究報告編集委員会

欧文研究報告の編集作業を行った。増刊特集号では、野辺山太陽電波観測所20周年記念の論文を掲載した。9月よりWeb投稿査読システムの運用を開始した。第66巻1号より制作販売をOxford University Pressに委託した。

### ◇ 天文月報編集委員会

天文月報の編集作業を行った。3つの特集（VERA, ALMA, rプロセス）を組み、今後の特集の計画も検討した。

### ◇ 年会実行委員会

秋季年会（2013年9月10日～12日・東北大学）および春季年会（2014年3月19日～22日・国際基督教大学）を開催した。両年会の準備にあたっては、2013年7月5日および2014年1月10日に年会実行委員会を国立天文台において開き、プログラムを編成した。

### ◇ 天文教育委員会

年会時の公開講演会と天文教育フォーラム（共催）を開催した。次年度以降開催分についても準備を開始した。講師紹介プログラムについては、本年度は9件紹介し、6件成立した。学会Webの更新に合わせて、教育委員会Webおよび講師紹介プログラムWebを本格運用する準備を行った。天文教育に関する各種協力要請に精力的に対応した。

### ◇ 選挙管理委員会

第3期代議員（任期：2014年度～2017年度）の選挙を定款及び代議員選挙施行細則に則り行った。2013年11月6日～12月5日を投票期間とし、2013年12月9日に開票作業を行い、代議員選挙施行細則・第10条により、得票順に17名を代議員とし、次点2名を補欠代議員として選出した。以上の選挙結果を天文月報2014年2月号に報告した。

◇ 林 忠四郎賞選考委員会

天文月報2013年9月号並びに tennet で林忠四郎賞受賞候補者の推薦と、欧文研究報告論文賞の推薦を会員に依頼した。2013年12月15日に選考委員会を東京大学大学院理学系研究科初期宇宙国際研究センターで開催し、候補者の中から林忠四郎賞1件、候補論文の中から欧文研究報告論文賞2篇を選考し、代議員総会に推薦した。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報2013年9月号並びに tennet で研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2013年12月21日に選考委員会を国立天文台三鷹キャンパスで開催し、候補者の中から研究奨励賞3名を選考し、代議員総会に推薦した。

◇ 天体発見賞選考委員会

天文月報2013年9月号で天文功労賞候補者推薦を会員に依頼した。2014年1月8日に開催された選考委員会で、天体発見賞5氏1グループ（2氏）20件、天体発見功労賞1氏1件、天文功労賞（長期部門）1氏、天文功労賞（短期部門）1氏2件の候補を選考し、代議員総会に推薦した。また、公開天文台職員が公開天文台の望遠鏡を用いて新天体を発見した場合の取り扱いについても委員会で議論し、その場合でも表彰はされるべきとの意見を代議員総会に報告した。

◇ 内地留学奨学金選考委員会

天文月報2013年7月号で2014年度の内地留学奨学金奨学生の募集を行ったが、応募がなかったため「該当者なし」とした。

◇ 早川幸男基金選考委員会

渡航旅費補助者の募集を4回行った。延べ55名の応募者から21名（うち8名は交通費援助、その他は全額援助）を採択した。2013年6月10日締切分から全額援助を可能とし、電子メールでの応募へと変更した。おそらくこの影響もあり、今年度は応募者数が大幅に増加し、採択率も38%と最近十年では最も低くなっている。一方、援助額は、全額援助に変更したため約425万円と増加した。本会会員の佐藤明達氏より当基金へ寄付を頂いた。ここに深く感謝いたします。

◇ ネットワーク委員会

メールサーバ、年会のサーバを含む事務所内計算機を常に適正な状態に保持し、重要データ等のバックアップを適切に行った。また委員を4名増員し、ウェブページのリニューアルのための検討を行った。

◇ 天文教材委員会

新たな天文教材の制作についてメール上で議論した。メシエ天体の名刺が在庫切れになったので、追加印刷について学会事務所と議論した。

◇ ジュニアセッション実行委員会

春季年会にて第16回ジュニアセッションを開催、予稿集を発行した。

◇ 男女共同参画委員会

秋季年会中に女性天文研究者の会が主催した「女子大学生誕生100周年記念ミニ談話会」に協賛した。春季年会中に同会と講演会「過度なストレスから心と身体の健康を守ってよい研究を～知らないと損する10の知恵～」を共催した。いずれも学生、院生、ポスドクを含む40人ほどの参加者があった。また天文教育委員会とともに2013年8月に「女子中高生夏の学校」にポスター展示とキャリア相談会、天体観望会を行った。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、第21回衛星設計コンテストを実施した。最終審査会が2013年11月9日に相模原市立博物館で開催され、一次審査を通過した16件の発表と質疑応答があった。審査の結果、日本天文学会賞は、日本大学理工学部・航空宇宙工学科チームの「軌道上微粒子サンプルリターン衛星『BALAENA』」に授与した。

## V. 各賞の授与（定款第2章第5条7項に該当の事業）

2013年度日本天文学会各賞は、2014年1月26日に開催された代議員総会で以下のように決定し、春季会員全体集会で授与した。

◇ 天体発見賞 [5氏1グループ(2氏) 20件]

・坪井 正紀氏 2件：

超新星 2013C の発見、超新星 2013fb の発見

・西山 浩一氏、椛島 富士夫氏 2件：

新星 ケフェウス座 V809 の発見、新星 さそり座 V1533 の発見

・岩本 雅之氏 1件：

彗星 C/2013 E2 (Iwamoto) の発見

・菅野 松男氏 1件：

超新星 2013am の発見

・板垣 公一氏 13件：超新星 2013bu の発見、超新星 2013cc の発見、新星 いるか座 V339 の発見、超新星 2013fa の発見、超新星 2013fs の発見、新星 わし座 V1830 の発見、超新星 2013ge の発見、超新星 2013gn の発見、新星 へび座 V556 の発見、超新星 2013hg の発見、超新星 2013hl の発見、超新星 2013hq の発見、超新星 2013hu の発見

・嶋 邦博氏 1件：

超新星 2013gv の発見

◇ 天体発見功労賞 [1氏1件]

・後藤 邦昭氏：

超新星 2013dy の独立発見

◇ 天文功労賞 [2氏3件]

長期的な業績

・堀川 邦昭氏：

「長期に及ぶCMTによる木星面諸現象のドリフトの定量的観測の継続」

短期的な業績

・佐藤 英貴氏：

「多数の周期彗星の初回回帰の検出」、「LINEAR 彗星 (C/2012 X1) のアウトバースト検出」

◇ 林 忠四郎賞 [1氏]

山本 智氏：東京大学大学院理学系研究科・教授

研究の表題：「星間分子雲の化学進化概念の確立と星形成過程の解明への貢献」

“Contribution to the understanding of star formation processes through the innovative concept of chemical evolution of molecular clouds”

◇ 欧文研究報告論文賞 [2編]

・論文題目：“The MAXI Mission on the ISS: Science and Instruments for Monitoring All-Sky X-Ray Images”

著者名：Matsuoka, Masaru; Kawasaki, Kazuyoshi; Ueno, Shiro; Tomida, Hiroshi; Kohama, Mitsuhiko; Suzuki, Motoko; Adachi, Yasuki; Ishikawa, Masaki; Mihara, Tatehiro; Sugizaki, Mutsumi; Isobe, Naoki; Nakagawa, Yujin; Tsunemi, Hiroshi; Miyata, Emi; Kawai, Nobuyuki; Kataoka, Jun; Morii, Mikio; Yoshida, Atsumasa; Negoro, Hitoshi; Nakajima, Motoki; Ueda, Yoshihiro; Chujo, Hirotaka; Yamaoka, Kazutaka; Yamazaki, Osamu; Nakahira, Satoshi; You, Tetsuya; Ishiwata, Ryoji; Miyoshi, Sho; Eguchi, Satoshi; Hiroi, Kazuo; Katayama, Haruyoshi; Ebisawa, Ken

出版年等：2009年、Vol.61, pp.999-1010.

・論文題目：“First Evidence of a Retrograde Orbit of a Transiting Exoplanet HAT-P-7b”

著者名：Narita, Norio; Sato, Bun'ei; Hirano, Teruyuki; Tamura, Motohide

出版年等：2009年、Vol.61、pp.L35-L40.

◇ 研究奨励賞 [3氏]

・小嶋 崇文氏：国立天文台先端技術センター・助教

研究の表題：「ALMA Band 10 低雑音 SIS ミキサの研究開発」

・当真 賢二氏：東北大学国際高等研究教育機構学際科学フロンティア研究所・助教

研究の表題：「ガンマ線バーストの偏光と相対論的ジェットの研究」

・成田 憲保氏：国立天文台太陽系外惑星探査プロジェクト室・特任助教

研究の表題：「トランジット法による系外惑星の成り立ちの研究」

## VI. 助成金（定款第2章第5条5、7、9項に該当の事業）

◇ 早川幸男基金：

若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い21名（第81回～第84回）に対して総額約425万円の援助を行なった。

◇ 学術交流費（学生の年会参加旅費補助）：

賛助会員会費をもとに、大学院生などが秋季年会（東北大学）、春季年会（国際基督教大学）に参加して研究発表をするための一部補助を行った。（発表者：41名、総額約74万円）

◇ 内地留学奨学金：

該当者がなかったため、支給を行わなかった。

## Ⅶ. 後援事業等（定款第2章第5条8項に該当の事業）

国際・国内シンポジウムなどの共催1件、後援16件、協賛10件を決定した。

承諾日		事業名	宛先（代表者）
4/8	後援	第27回天文教育研究会	天文教育普及研究会
4/8	後援	第60回全国研究大会岩手大会	科学教育研究協議会
4/24	協賛	第31回レーザーセンシングシンポジウム	レーザーレーダー研究会
4/30	後援	青年のための科学の祭典2013	日本科学技術振興財団
5/7	後援	第12回X線結像光学シンポジウム	大阪大学大学院
5/7	共催	第57回宇宙科学技術連合講演会	日本航空宇宙学会
5/7	協賛	第14回可視化フロンティアP I V講習会2013	可視化情報学会
5/9	後援	伝統的七夕ライトダウンキャンペーン	伝統的七夕ライトダウン推進委員会
5/13	後援	第3回高校生天文活動発表会・天文高校生集まれ・	高校生天文活動発表実行委員会
6/7	後援	第10回ジャパン・サイエンス&エンジニアリング チャレンジ	朝日新聞
6/17	後援	八重山高原星物語	八重山高原星物語実行委員会
6/17	後援	第9回最新天文学の普及をめざすワークショップ	国立天文台
6/28	後援	第63回東レ科学講演会	東レ科学振興財団
7/16	後援	三鷹の森科学文化祭「みたか太陽系ウォーク」	三鷹ネットワーク大学推進機構
7/24	協賛	H25年度「女子中高生夏の学校2013」	国立女性教育会館
7/24	後援	特別公開日「三鷹星と宇宙の日」	国立天文台
8/9	後援	第14回こどものためのジオカーニバル	こどものためのジオカーニバル 企画委員会
8/13	協賛	Optics & Photonics Japan 2013	Optics & Photonics Japan 2013 事務局
8/16	協賛	日本地球惑星科学連合2014年大会	日本地球惑星科学連合事務局
8/26	協賛	第15回可視化フロンティア	可視化情報学会
8/29	後援	2013年度益川塾シンポジウム	京都産業大学
11/6	後援	光学赤外線観測装置に関する技術ワークショッ プ	京都大学宇宙物理教室
12/16	協賛	第16回流れの可視化に関する国際会議	可視化情報学会
1/29	協賛	第39回光学シンポジウム	応用物理学会
2/6	協賛	日本流体力学会2014	日本流体力学会
2/17	協賛	大型レーザーによる高エネルギー密度科学研究 の新展開	大阪大学レーザーエネルギー学 館
2/24	後援	第61回全国研究大会東京大会	科学教育研究協議会

## Ⅷ. 外部の各賞・研究助成等への推薦（定款第2章第5条7項に該当の事業）

外部の各種の賞および研究助成に対し、天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、会長・副会長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。（山田科学振興財団研究援助1件、東レ科学技術研究助成1件、学術振興会育志賞1件）

## Ⅸ. 全国同時七夕講演会の開催（定款第2章第5条4項に該当する事業）

（7月7日を中心とした）6月末～8月上旬に全国同時七夕講演会を国内119ヶ所で開催し、約9000人が参加した。

## X. 事務所活動（定款第1章第2条）

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員2名と約10名の非常勤職員により、本会の各事業に関する業務活動を行った。また、年度末で非常勤職員1名が退職した。

### 会 員 数

2014年3月31日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2013年4月1日	1,754(254)	1,164	37	42	2,997
入 会	108(99)	28	1	0	137
退 会	△77(46)	△33	0	0	△110
移 籍 (増)	19(2)	11	-	-	30
移 籍 (減)	△11(2)	△19	-	-	△30
2014年3月31日	1,793(307)	1,151	38	42	3,025

(注：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(文責 庶務理事：本原顕太郎)